

た か ら べ た け し

財部彪日記 大正十年・十一年

ワシントン会議と海軍

A 5判164頁 本体 2,500円

ISBN978-4-8295-0880-0

【尚友ブックレット39】

尚友倶楽部・季武嘉也 編



ワシントン会議の結果、海軍内部の亀裂が広がっていく時期の史料

海軍エリートとして順調に栄進し、42歳の若さで海軍次官に就任した財部は、旅順要港司令官、舞鶴鎮守府司令長官、佐世保鎮守府司令長官、横須賀鎮守府長官を歴任し、大正12年に海軍大臣に就任。財部の日記は、海軍次官時代（山川出版社刊、1983年）、海軍大臣時代（芙蓉書房出版刊、2021年）のものがすでに刊行されている。

＊本書は海軍大臣時代直前の大正10年・11年（佐世保鎮守府司令長官時代後半と横須賀鎮守府司令長官時代前半）の日記の翻刻。

大正10年・11年は、ワシントン会議で主力艦の比率を英米5、日本3と定めた海軍軍縮条約、太平洋の現状維持を定めた四カ国条約、中国の領土保全、門戸開放などを定めた九カ国条約が締結され、昭和6年の満州事変に至るまでのワシントン体制が確立された時期。

加藤友三郎ら海軍主流はワシントン会議の結果を受け入れて海軍軍縮、日米協調の方向に舵を切ったが、加藤寛治らは軍備格差の固定化を国防の不安につながるとした。この小さな亀裂は昭和5年のロンドン海軍軍縮条約締結以降いっそう広がり「条約派」「艦隊派」と呼ばれる対立となり、さらには国民をも巻き込んだ国家の大分裂へとつながっていく。

「本書は、このような海軍内対立の分岐点となったワシントン会議期をカバーしており、当時の海軍の内情を知る上で重要なものといえよう。そして、前著『財部彪日記 海軍大臣時代』と併せ読むことで、ワシントン体制期の海軍の動向を見通すことにも寄与すると考える」（季武嘉也「解説」より）

既刊 『財部彪日記 海軍大臣時代』

尚友倶楽部・季武嘉也・櫻井良樹編

本体 8,500円

大正12年から昭和5年まで、六代の内閣で海軍大臣を務めた財部彪の日記の翻刻版。昭和5年のロンドン海軍軍縮条約を巡って、海軍のみならず政界全体や国民をも巻き込んだ大分裂に至る、そうした日本近現代史の中でも特に重要な局面の中で、その中心点にあった当事者の第一級のドキュメントとして注目の史料。

＊財部彪日記の概要と研究上の位置づけなどを詳細に記した6本の「解題」を収録。解題執筆者／季武嘉也・櫻井良樹・畑野 勇・太田久元・手嶋泰伸・兒玉州平

＊登場人物の「索引」を完備。

【芙蓉書房出版刊 2021年】



財部彪日記
大正10年・11年
大正10年から大正11年（佐世保鎮守府司令長官時代後半と横須賀鎮守府司令長官時代前半）の日記の翻刻。



4月下旬 発売です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
財部彪日記 大正十年・十一年		
4月新刊 本体 2,500円	部	